



涌小通信

知内町立涌元小学校

〈学校教育目標〉

よく考える子 思いやりのある子 健康な子

重点教育目標「粘り強く学び 最後までやり切る心をもった子供の育成」

令和4年5月27日発行

「私は先生のことが嫌いでした」

校長 柳澤 満

運動会の練習が本格化しています。職員室からは子供たちの走る姿が見えてきます。走るのが得意で一位でゴールを駆け抜ける子もいれば、必死になって走っている子もいます。そんな光景を見ていると、私はかつて担任していたある女の子のことを思い出します。今回のお便りでは、私がお母さんから教えてもらったことをご紹介します。

私が学級担任をしていた頃、放課後は小学生の女子バレーボールチームの監督をしていました。森・尾白内バレーボールクラブ、銭亀沢バレーボールクラブで15年ほど指導していました。その頃の私は正月も練習するタイプの指導者でした。北海道の1番を目標に毎日毎日練習に明け暮れていました。監督をした二つの地域共にホタテや昆布の漁師さんが主流の地域で、漁師気質の熱い保護者の応援を土台にして、勝つことばかりに心を奪われていました。

そんな時にある一人の女の子と出会いました。その子は走るのが苦手な運動も得意ではない子でした。しかし、バレーボールが大好きで、いつかはレギュラーになりたいという思いを強く抱いていました。同じ世代には6年生が7人いました。彼女は6年生になってもレギュラーにはなれずに試合に出ることはできませんでした。

ゴールデンウィーク中に江別市で全国を狙うチームが集まる合宿がありました。3日間ひたすら練習試合を繰り返します。後半になるとチームの調子が悪くなり、負けが続きました。私はいつも以上に厳しい練習や言葉で選手に指導していました。そんな時にふとベンチを見ると、一生懸命にひたむきに記録を取っている彼女の姿が目に入りました。本当は6年生で自分も試合に出たいはずなのに……。そんな思いを見せないで献身的にチームのために記録を取り続ける彼女の姿がとても愛おしく思えてきました。私は合宿の最後にこんな言葉をミーティングで話しました。

「今回の合宿で一番がんばっていたのは〇〇だ。6年生でただ一人試合に出られないのに、それでも腐ることなくずっとチームのために働いてくれた。これはなかなかできることじゃない。ありがとう。」

いつも勝ったときぐらいしか寝めない私は、彼女の支えに心から感謝を述べました。

それから10年ほどして、彼女が看護師の試験に合格したときにお母さんと一緒に会いにきてくれました。その時、彼女は小学校の時、いつも勝つことばかりにこだわりすぎていた先生が大嫌いだったこと、そして、自分だけレギュラーになれないことで6年生の最初はバレーをやめようと思っていたことを話してくれました。けど、合宿の時に先生から初めて感謝されたこと、それから試合に出られない私をいつも認めてくれたことにより途中で辞めないで続けることができたと話してくれました。

そして、彼女は中学、高校でもバレーボール部のマネージャーとして活躍し、大人になった今では審判としてバレーに関わっています。4年前、ワールドカップの日本代表戦のラインズマンとしてテレビに映っていました。「先生、今日、テレビに中継されます、見てください。やっぱり私はバレーが大好きです。」というメールが届きました。

勝つことや一番になることも大切です。しかし、みんなが輝く成功や結果を手に入れることはできません。大切なことは「自分なりに努力をすること」、そして「人のためになる」ことをすることです。

私たち大人が子供の努力を認めてあげることで、子供は自分の存在を認められて自信をもっていきます。結果ではなく、努力の過程を私たち大人がきちんと見てあげることの大切さを私は彼女から学ばせていただきました。6月5日に運動会が開催されます。一位になれなくても一生懸命にがんばるお子さんの様子をたくさん褒めてあげてください。